

市民の安心と笑顔のために

No 400

2026年3月11日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

補助の必要性変わらず／縮小あってはならない

身体障がい者の運転訓練費、車改造費の補助事業で田中啓介議員 3月6日予算特別委

札幌市が、身体障がい者の社会参加を目的とした運転免許取得費、自家用車改造費への補助予算額の大幅減額を打ち出したことで6日、日本共産党の田中啓介市議は、制度の目的や実績に照らして縮小に道理はなく予算削減は許されないと反論しました。

身体障がい者が自家用車で移動する場合、運転免許の取得に平均約30万、購入する車の改造費として約20万円が必要といわれ、当事者の障がい者が市に予算削減の撤回を申し入れています。

過去10年間をみても、運転訓練費で約15件、改造費で30件から40件ほどの申請実績があり、直近3年間の申請件数をみても傾向は変わりません（表参照）。身体障がい者にとって欠かせない制度として、定着してきたことは、これらの数字が裏付けています。



身体障がい者運転訓練費補助事業と同自動車改造費補助事業の予算及び決算額、補助件数(運転訓練費/自動車改造費)

2022年		2023年		2024年	
予算	決算	予算	実績	予算	実績
725万	490万	560万	400万	440万	440万
(13件/37件)		(18件/24件)		(13件/33件)	

田中市議は、市民や障がい者が必要としているなかで予算を減額することは、「どう考えても理解できない」と指摘。市が削減理由の一つにあげている、公共交通機関のバリアフリー化の進展に関わって、積雪寒冷地でありバスの減便や路線廃止がすすむ地域の広がりやを考慮しない予算編成であり、事業の補助額縮小はあってはならないと反論しました。

生物多様性保全とヒグマ侵入防止、両立への基準や整備を

3月6日予算特別委 長屋いずみ市議

長屋市議は、人とヒグマがどのように共生すべきかを考え、ヒグマが本来の姿で生きられる生息地をどのようにつくるかという方向性を示した「さっぽろヒグマ基本計画2023」を進展させる立場から質問しました。

市内東区に出没し市民に被害を与えたヒグマは、以前から札幌市、当別町、石狩市を河川敷の河畔林も利用し行き来していました。当別町側の国土交通省開発局では、独自に注意を喚起する看板を立てていましたが、隣接自治体での共有はされていませんでした。

長屋市議は、ヒグマの見える化が必要との意見があることも紹介し、「隣接自治体と個別出沒情報などを共有するなど広域的なデータベースの構築も図っていくべき」と提案。担当部長は、「広域的なデータの共有について北海道や近隣自治体との間で機会を捉えながら協議を進めたい」と答弁しました。さらに、「生物多様性保全のための生態系ネットワークの構築と、ヒグマの市街地侵入防止の相反する2つの目標をどう両立させるのか」と質問。「生物の生育環境や移動経路などの連続性を確保」とのべつつ、「ゾーニング管理による人とヒグマのすみわけを図っている」との答弁に、現場ではどちらを優先するか判断が迫られることになり、判断を下す意思決定の基準や体制の整備を進めてほしいと要望しました。

